

公 開  
資 料 1

第 3 5 4 回 幹 事 会  
諸 報 告 事 項

令和5年10月3日

日 本 学 術 会 議



## Ⅱ 諸 報 告 事 項

ページ

第 1	前々回幹事会以降の経過報告	
1	会長メッセージ	3
2	会長等出席行事	7
3	委員の辞任	7
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	7
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	8
3	機能別委員会の開催とその議題	8
4	分野別委員会の開催とその議題	8
5	課題別委員会の開催とその議題	12
6	若手アカデミーの開催とその議題	12
7	連絡会議の開催とその議題	12
8	サイエンスカフェの開催	12
9	記録	12
10	総合科学技術・イノベーション会議報告	12
11	慶弔	13
12	意思の表出に係る報告	13
13	意思の表出（英訳版）に係る報告	13



## 第1. 前々回幹事会以降の経過報告

### 1. 会長メッセージ (2件)

#### 会長メッセージ

#### 「第25期日本学術会議を終えるにあたって」

令和5年9月25日

第25期日本学術会議会長 梶田 隆章

第25期の日本学術会議会長としての任期もあと少しとなりました。この機会をお借りして、会長として3年間日本学術会議の運営に携わった私の思いをお伝えさせていただきます。

まず、今期は、その初日から学術会議が推薦した6名の会員候補者が任命されないという異常事態の中で始まりました。以来、この問題の解決を私に課せられた最大の課題と認識して学術会議の運営を行ってきました。学術会議側には瑕疵はありませんので、2020年10月2日の要望書に書いたように「任命されなかった理由を教えてください」、「任命されていない6名を、任命してほしい」との思いで対応してきました。またこの問題について多くの学協会の皆様などから心強いメッセージをいただきました。ありがとうございました。残念ながら未だにこの問題は解決していません。特に、2022年12月以来の学術会議の在り方問題への対応に注力せざるを得なかったこともあって、以来この問題の解決に向けて何も進展しておらず、次期に引き継がざるを得ないと思われまます。申し訳ありません。

また、2022年12月6日に内閣府から「日本学術会議の在り方についての方針」が公表され、2023年の通常国会への法改正案の提出を予定しているとのことでした。当事者の学術会議には事前に何の相談もなく、突然、学術会議法の改正案が提案されて大変驚きました。その後、我々としては、このような法改正がなされると、科学者の内外に対する代表機関として独立して職務を行う日本のナショナル・アカデミーとしての日本学術会議の在り方が根本的に変わってしまい、ひいては他国からの日本という国への見方が変わってしまうのではないかとの危機感から全力でこの問題に対応してきました。幸いにも、国内の多くの学協会や、多数の国内外のノーベル賞受賞者を含む多くの方々のサポートを得て、2023年4月に、この法改正案の国会への提出は見送られました。学術会議法改正案へ懸念を表明していただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

その後内閣府では、日本学術会議に求められる機能及びそれにふさわしい組織形態の在り方について検討するため、「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」を2023年8月に設置しました。内閣府側では、見送りになった法改正案か、法人化かの二者択一の議論を想定しているようです。一方、学術会議としては、現在の日本の学術の現状を踏まえ、日本の学術の発展に資するような議論を行い、それを念頭に置いて学術会議や日本の学術生態系の在り方を広く議論してもらうことを希望しています。残念ながら、この問題も第

25 期中には決着がつかず、次期の会長を始め執行部の皆さんには期の初めという非常に重要な時期に多大な負担を強いることになり、申し訳なく思います。

その一方で、2021 年 4 月の第 182 回総会の場で「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」をお認めいただいたことは、非常に良かったと思っております。この中で書いた日本学術会議の自己改革を可能な限り進めさせていただきました。それなりに多くの重要な改革ができたのではないかと多少自負しております。ただし、任命問題や学術会議の在り方問題に力を注がざるを得ず、本来であれば学術会議としてやるべきことを、もっとできたのではないかとこの忸怩たる思いもあります。そして「より良い役割発揮」のなかで、学術会議がナショナル・アカデミーとして活動するうえで最低限の条件としてナショナル・アカデミーの 5 要件を示したことは忘れてはならないと思っております。5 要件を明確にしたことで、学術会議の在り方問題など、難しい問題に直面したときにぶれずに対応することができたと思っております。

次期の会長及び執行部には独自のお考えがあるだろうと思えますし、そのことは最大限尊重すべきと思えます。ただ、第 25 期の会長として、次期の会長また執行部の皆さんにもし何か言わせていただければ、次期においても引き続きナショナル・アカデミーの 5 要件等のナショナル・アカデミーはどうあるべきかなど決して曲げてはいけないことを常に念頭に置いて難局に対処していただけることを願っております。現在の会員・連携会員で第 26 期も活動を継続される皆さまには、今期、皆さんと共に考え追求してきた学術会議のあるべき姿を踏まえつつ、継承すべきことは継承し、改めるべきことは改めて、日本学術会議が真価を遺憾なく発揮できるようにするための活動を進められることを期待しております。8 月末に始まった有識者懇談会への対応では、継承性が特に大切だと思います。そして、新たに会員・連携会員となられる皆さまには、この 3 年間に私たちが議論してきた経験と知の蓄積を踏まえつつ、新しい観点のもとに活動を進めてくださることを期待しております。

第 25 期 3 年間にわたって多くの皆様のご理解、ご協力をいただき、深く感謝しております。どうもありがとうございました。皆様の今後のご活躍と日本学術会議の発展を祈念しております。

### 会長メッセージ

#### 「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 3 回会合の開催について」

令和 5 年 9 月 29 日

日本学術会議会長 梶田 隆章

9 月 25 日午前、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 3 回会合が開催されました。第 2 回会合（令和 5 年 9 月 6 日）において懇談会構成員から、日本学術会議がどのような機能・役割を担うべきかを議論するために、学術会議が取り組んでいる活動について

て報告してほしいとのご意見がありました。また、座長の冒頭発言でも「学術会議の果たすべき機能・役割についてまずは議論し、その上で組織形態等へと論点を進める」という方向性が示されたことから、第3回会合では、日本学術会議が主として行っている、科学的助言、国際活動、普及・啓発活動を中心に報告を行いました。加えて、これも第2回で議論になった会員選考方式についても、あらためてコ・オプテーション方式について説明を行いました。冒頭、内閣府からは、前回懇談会構成員から出された、「学術」と「科学」という用語の法律上の異同についての質問に関して、ほぼ同義との説明がありました。

科学的助言に関しては、独立した立場からボトムアップで課題を抽出し、中長期的な未来を展望して総合的・俯瞰的に行っていることを強調しました。その上で、今期の特徴的な科学的助言を紹介しました。このうち、社会にとって重要でかつ対応が必要な問題である着床前遺伝学的検査についての提言に関しては武田洋幸第二部部長から、懇談会構成員からの質問を受けて、「見解 研究活動のオープン化、国際化が進む中での科学者コミュニティの課題と対応ー研究インテグリティの観点からー」に関しては吉村忍第三部部長から追加の説明を行いました。

国際活動に関しては、国を代表するアカデミーとして最も重要な役割の一つと位置づけており、学術のグローバルコミュニティとともに国際的に連携することにより、世界と日本の学術の発展を追求し、一国では対応できないグローバルな社会課題の解決に向けて貢献していることを報告しました。現在42の国際学術団体に加盟し、それらの運営や審議に参画していること、アジア学術会議の事務局を務め、アジア地域における学術の発展と交流を促進していること、G7のアカデミーをはじめ各国のアカデミーとともに共同で政策提言を行っていることなどです。今回私から行った報告の内容は、すでに内閣府のサイト上に公開された懇談会資料（資料1）でぜひご確認ください。

今回、審議会・有識者会議等の運営としてはやや異例のことと思われませんが、懇談会事務局を務める内閣府から学術会議に対してかなり立ち入った質問があり、その回答に相当の時間を割かねばなりません。その中には、たとえば、学術の独立性や「価値中立」の問題のような、時間をかけて考えるべき本質的な論点も含まれました。これらは、むしろ懇談会構成員間でしっかり議論していただき、ナショナル・アカデミーの機能・役割を考える際の前提として共通認識を深めていただくのが望ましかったようにも感じます。

有識者懇談会メンバーからは、一方で学問の自由に関する問題に始まり、他方で、個別の提言・見解の内容、現行の会員の任期の妥当性や外国人会員の可能性のような個別具体的な論点にいたる多様な意見が出されました。詳細は後日公表される議事録に委ねますが、私たちにはやや趣旨が汲み取りにくく、どのような回答が適切なのか、困惑する場面もありました。日本学術会議として回答できる事項と、むしろそれぞれ一個の科学者あるいは専門家として発言するのがふさわしい問題とがあり、後者について学術会議の役割・機能を検討する懇談会の場で意見を述べるのは、その場に相応しくないようにも感じられました。今後、有識者懇談会で学術会議としてどのように考え方を伝えられるのかは、まもなく選出される次期の執行部のもとでさらに検討が必要だと感じています。

有識者懇談会の今後の議論の進め方は有識者懇談会により決められますが、座長が冒頭で述べられた通り、「学術会議の果たすべき機能・役割についてまずは議論し、その上で

組織形態等へと論点を進める」のであれば、今回も実に様々の意見が出されており、有識者懇談会として日本学術会議の機能と役割について見解を練り上げるには、なお時間を要するのではないかとの感想を抱きました。予算問題など、時間的制約で詳しく説明できなかった論点もあります。今後の審議の進め方の検討にあたって、この点への配慮をお願いしたいと考えます。

10月からは第26期がスタートします。私が会長として有識者懇談会で説明するのは今回で最後となります。新たに会員・連携会員となられる皆様や、10月の総会で選出される新執行部の皆様には、懇談会の場で私たちの積み上げてきた議論を理解いただき、あるべき日本学術会議を守り発展させていただくことを心よりお願い申し上げます。

\* 内閣府・有識者懇談会HP

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

\* 第3回有識者懇談会資料

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/20230925shiryo.html>

\* 第2回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20230906gijiroku.pdf>

\* 第1回有識者懇談会議事録

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20230829gijiroku.pdf>

\* 日本学術会議HP 「日本学術会議の在り方について」特設ページ

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-20.html>



## 2 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
9月25日(月)	第3回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	梶田前会長 望月前副会長 菱田前副会長 高村前副会長 小林前会長アドバイザー
9月25日(月)	記者会見	梶田前会長 望月前副会長 菱田前副会長 高村前副会長 小林前会長アドバイザー
9月28日(木)	INGSA 会長とのバイ会談	梶田前会長 高村前副会長
9月30日(土) ～10月1日(日)	第20回STSフォーラム	梶田前会長 高村前副会長
10月1日(日)	欧州委員会科学技術事務次長バイ会談 オランダ教育文化科学副大臣バイ会談 英国王立協会副会長バイ会談	梶田前会長 高村前副会長
10月2日(月) ～4日(水)	日本学術会議第189回総会	梶田前会長 望月前副会長 菱田前副会長 高村前副会長

注) 部会、委員会等を除く。

## 3 委員の辞任

なし

## 第2. 各部・各委員会等報告

### 1 部会の開催とその議題

(1) 第二部役員会 (第35回) (9月25日)

- ① 第26期役員への引継ぎ事項
- ② その他

(2) 第三部拡大役員会 (第32回) (9月26日)

- ① 第三部次期申し送り事項について
- ② 第三部意思の表出等の状況について
- ③ その他

## 2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

## 3 機能別委員会の開催とその議題

なし

## 4 分野別委員会の開催とその議題

### 第一部担当

(1) 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同 地理教育分科会 (第6回) 及び同分科会学校地理教育小委員会 (第4回)、同分科会自然地理学・環境防災教育小委員会 (第7回)、同分科会大学地理教育小委員会 (第6回)、同分科会地誌・国際理解教育小委員会 (第7回)、同分科会地図/GIS教育小委員会 (第5回) 合同会合 (9月25日)

① 次期への引継ぎ事項について

(2) 言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同 デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 (第10回) (9月25日)

① DHSSに関する最新情報の共有

② 第25期の振り返り

③ 第26期の活動計画

④ その他

(3) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 地球環境変化の人的側面 (HD) 分科会 (第7回) (9月27日)

① 分科会に関係する国内的・国際的動向

② 公開シンポジウムについて

③ 次期に向けての申し送り事項について

④ その他

(4) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会 (第8回) (9月29日)

① 第25期の意思の表出 (見解) について

② 第26期への申し送りについて

③ その他

(5) 言語・文学委員会 科学と日本語分科会 (第5回) (9月29日)

① 第25期の活動の総括について

② その他

(6) 心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会 (第5回) 及び心理学・教育学委員会 公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会 (第5回) 合同分科会  
(9月29日)

- ① 今期までのまとめと次期への引継ぎについて
- ② その他

## 第二部担当

(1) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会 (第3回)  
(9月25日)

- ① 生物資源の問題についての情報共有
- ② 日本学術会議の在り方
- ③ 当該分野の現状
- ④ 次期への申し送り事項
- ⑤ その他

(2) 健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同 生活習慣病対策分科会 (第4回)  
(9月25日)

- ① 多職種が連携した生活習慣病予防に資する卒前・卒後教育のあり方について
- ② その他

(3) 臨床医学委員会 移植・再生医療分科会 (第9回) (9月26日)

- ① 今後の活動方針について  
・臓器移植の現状と課題
- ② 次回シンポジウムの課題について

(4) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同 分子生物学分科会  
(第3回) (9月26日)

- ① 生物資源の問題についての情報共有
- ② 日本学術会議の在り方
- ③ 当該分野の現状
- ④ 次期への申し送り事項
- ⑤ その他

(5) 臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会 (第2回) (9月27日)

- ① 第26期に向けた意見交換
- ② その他

### 第三部担当

#### (1) 土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同 脱炭素社会分科会 (第9回) (9月25日)

- ① 脱炭素社会分科会報告に関する議論
- ② その他

#### (2) 電気電子工学委員会 URSI 分科会 (第5回) (9月27日)

- ① 今回議事録の取扱いについて
- ② URSI 分科会の活動について
  - 2.1 URSI 分科会小委員会の開催状況について
  - 2.2 URSI 分科会の活動報告及び年次報告について
  - 2.3 第26期における継続的な活動を実施するための加盟国際学術団体に対応する分科会・小委員会の設置について
  - 2.4 その他
- ③ URSI 本部への対応について
  - 3.1 2023年 URSI 分担金について
  - 3.2 URSI 分担金に関する日本のカテゴリの変更について
  - 3.3 2024年 URSI 大西洋電波科学会議 (URSI AT-RASC 2024) の開催について
  - 3.4 2025年 URSI アジア・太平洋電波科学会議 (URSI AP-RASC2025) の開催について
  - 3.5 その他
- ④ 第35回 URSI 総会 (URSI GASS 2023) の札幌開催について
  - 4.1 URSI GASS 2023 Status Report について
  - 4.2 開会式及び特別レセプションについて
  - 4.3 バンケット及び閉会式について
  - 4.4 2023年 URSI 学術賞について
  - 4.5 参加登録者数の最新データについて
  - 4.6 WIRS (Women in Radio Science) Workshop 報告について
  - 4.7 URSI GASS 2023 特集号の計画について
  - 4.8 各種委員会の開催について
  - 4.9 URSI Board 次期役員の選出について
  - 4.10 URSI Commission 次期役員の選出について
  - 4.11 第36回 URSI 総会 (2026年) のポーランド・クラクフ開催について
  - 4.12 第37回 URSI 総会 (2029年) 開催地の選定について (案)
  - 4.13 収支決算について
  - 4.14 URSI National Report の作成について
  - 4.15 市民公開講座の実施について
  - 4.16 観光庁「ポストコロナに向けた国際会議誘致競争力向上事業」の実施について
  - 4.17 その他
- ⑤ 小委員会の活動について
- ⑥ URSI 分科会及び同小委員会の次期 (第26期) 体制について
- ⑦ 次期 (第26期) URSI 分科会の活動について

⑧ その他

(3) 土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 (第10回) (9月27日)

- ① 議事録確認
- ② 日本学術会議関連
- ③ 国際コンポーネント
- ④ 国内コンポーネント
- ⑤ その他

(4) 材料工学委員会 (第10回) (9月27日)

- ① 25期材料工学委員会および関連分科会の活動について (総括)
- ② 意思の表出について
- ③ 次期への申し送り事項について
- ④ その他

(5) 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 (第5回) (9月28日)

- ① 第25期第3回分科会議事録の確認 (森委員長)
- ② 日本学術会議総会の報告 (森委員長)
- ③ 「未来の学術振興構想」について
- ④ 物理学委員会の報告 (腰原委員)
- ⑤ 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会の報告 (腰原委員)
- ⑥ カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議の報告 (板倉幹事)
- ⑦ プラズマサイエンス小委員会の報告 (吉田委員)
- ⑧ ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学小委員会の報告 (兒玉委員)
- ⑨ その他

(6) 土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会 (第12回) (9月28日)

- ① 下水道による浸水対策について  
(吉澤 正宏 国土交通省水管理・国土保全局下水道部流域管理官)  
(橋本 翼 国土交通省水管理・国土保全局下水道部流域管理官付課長補佐)
- ② 見解「気候変動に伴う水災害の頻発化・激甚化に対応して、今、科学・技術に求められるもの～将来の市街地土地利用のために～」について
- ③ 記録「流域治水に資する建築物の耐水設計検討小委員会の活動の記録」について
- ④ 意見交換
- ⑤ その他

(7) 地球惑星科学委員会 IGU 分科会 (第9回) (9月29日)

- ① 議事録確認 (報告)
- ② IGU 関連の最近の動向
- ③ 次期へ向けた引継ぎ事項

## 5 課題別委員会の開催とその議題

(1) ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会（第7回）  
（9月26日）

- ① これまでの活動の振り返り
- ② 第3回ヒトゲノム編集国際サミットの報告
- ③ 今後について

(2) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会  
（第13回）（9月26日）

- ① 今期の委員会活動報告について
- ② その他

## 6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

## 7 連絡会議の開催とその議題

なし

## 8 サイエンスカフェの開催

日時：令和5年9月25日（月）18時～19時30分

場所：名古屋大学 ナショナル・イノベーション・コンプレックス  
（NIC館）Idea Stoa（対面開催）

テーマ：レーザーの新たなミッション「宇宙ゴミを大気圏再突入させよ」

講師：佐宗 章弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院工学研究科教授・副総長）

進行：高橋 将太（名古屋大学素粒子宇宙起源研究所特任助教）

## 9 記録

なし

## 10 総合科学技術・イノベーション会議報告

### 1. 本会議

なし

### 2. 専門調査会

なし

### 3. 有識者議員会合

なし

1 1 慶弔

なし

1 2 意思の表出に係る報告

なし

1 3 意思の表出（英訳版）に係る報告

なし

1 4 インパクト・レポート

なし